

大城ひかるのベトナム

通信

- 9 -

シンチャオ
(Xin chào)
おきなわ



見学生な筆
夢人習と
をム実材
日本働くこと
当校のベトナム
生。写真は高度
ではなくエンジニア
でなくエンジニア
者撮影

今年1月1日、厚生労働省が各国の送出し機関を現地調査するというネットニュースを読みました。「失踪する技能実習生」の背景に、母国で高額な紹介料を支払って来日する実態があると、実習生の派遣にかかわる金銭面を明らかにしたいとのことでした。技能実習生が多いベトナムや中国を中心に調査するそうです。常々、技能実

習生や送出し機関が十把一絡げに語られることを苦々しく思っていたので、ニュースを読み「これは日本の方々知ってもらえる良いチャンスだ」と思いました。

ご承知の通り、外国人技能実習制度は発展途上国の若者に日本の技能・技術・知識などを教え、その地域の経済発展を担う人材を育成する「我が国の国際貢献の一環」です。日本は現在、ベトナムをはじめインドネシア、ミャンマーなど16カ国から実習生を受け入れています。中でもベトナム人実習生は最も数が多く、20万人以上います。実習生を派遣する送出

現代日本を映す実習生制度

し機関は、「技能実習生になろうとする者からの技能実習に係る求職の申込みを、適切に監理団体に取り次ぐことができる者」と定められており、ベトナムの場合、政府認定機関のみがその業務を行うことができます。現在、510社が認定されていますが、残念なことに一部に不良送出し機関があることも事実で、そのような機関と一緒になった日本語学校から転職してくる日本人教員もいます。

とはいえ、それで全体が語れるわけではありません。例えば、ベトナム人実習生の場合、令和3年の失踪率は2・4%でした。残りの97%は真面目に働き、日本の生活を満喫して、3年〜5年働いたのち、母国へ帰っていく普通の若者です。わが校の出身者でも、たまに騒音やゴミ出しへの苦情があると耳にしますが、その辺は異文化接触の範囲内と言えるでしょう。実際、1年目より2年目、2年目より3年目と日本の生活に慣れるにつれ、苦情は減り、逆に会社や地域の大きな力へと育っています。

残念なことに、このような若者にスポットが当たるとはまずありません。特別じゃないと「ニュー(NEW)ス」ではないからです。私も、新人記者の頃に「犬が人を咬んでもニュースにはならないが、人が犬を咬むとニュース」と教えられ、見出しが立つ切り口を探していたもので、ですから事あるごとに「ベトナム人が」「実習生が」などの表題がつくのは分かりますが、短絡的に結論に飛びつかないう姿勢は必要だろうと思います。

実習生の失踪には借金のほか、母国への送付を増やすための不法就労などが挙げられますが、賃金未払いや劣悪な労働環境など日本企業の問題も指摘されているところ。また労働力需給の調整に利用してはならないとされていますが、現状では労働力として欠かせなくなっており法的整合性も問われています。課題山積の実習生制度は現代日本を映す鏡なのかもしれません。次回は失踪者が生まれる背景などベトナムの労働市場についてお話しします。